

# CBDCA+PEM+Bmab療法

【対象症例】

非扁平上皮癌

【登録診療科】 呼吸器外科

## 【治療計画】

順番	薬剤名	推奨投与量	投与時間	投与日
①	デキサメタゾン	6.6mg	30分	day1
	パロノセトロン	0.75mg		
	生理食塩水	100mL		
②	ペメトレキセド	500mg/m <sup>2</sup>	10分	day1
	生理食塩水	100mL		
③	カルボプラチン	AUC5	1時間	day1
	5%ブドウ糖	250mL		
④	生理食塩水	50mL	フラッシュ	day1
⑤	ベバシズマブ	15mg/kg	*	day1
	生理食塩水	100mL		
⑥	生理食塩水	50mL	フラッシュ	day1
内服①'	デキサメタゾン	8mg	朝、昼食後	day2、day3
* 初回90分、初回にて忍容性が良好なら2回目60分、2回目の忍容性良好なら3回目以降30分				
【投与スケジュール】 1コース 28日間				

# CBDCA+PEM+Bmab療法

【対象症例】

非扁平上皮癌

【登録診療科】 呼吸器外科

## 【治療計画】

順番	薬剤名	推奨投与量	投与時間	投与日
①	デキサメタゾン	6.6mg	30分	day1
	パロノセトロン	0.75mg		
	生理食塩水	100mL		
②	ペメトレキセド	500mg/m <sup>2</sup>	10分	day1
	生理食塩水	100mL		
③	カルボプラチン	AUC5	1時間	day1
	5%ブドウ糖	250mL		
④	生理食塩水	50mL	フラッシュ	day1
⑤	ベバシズマブ	15mg/kg	*	day1
	生理食塩水	100mL		
⑥	生理食塩水	50mL	フラッシュ	day1
内服①'	デキサメタゾン	8mg	朝、昼食後	day2、day3

\* 初回90分、初回にて忍容性が良好なら2回目60分、2回目の忍容性良好なら3回目以降30分

【投与スケジュール】 1クール 28日間

## 【禁忌】(必ず確認してください)

- ・本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- ・重篤な骨髄抑制のある患者
- ・下痢のある患者、多量の腹水、胸水のある患者
- ・咯血(2.5mL以上の鮮血の咯出)の既往のある患者
- ・妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

## 【薬剤原則禁忌】

- ・有効な抗菌薬の存在しない感染症、全身の真菌症の患者
- ・精神病の患者
- ・結核性疾患の患者
- ・単純疱疹性角膜炎の患者
- ・後嚢白内障の患者
- ・最近行った内臓の手術創のある患者
- ・ウイルス性結膜・角膜疾患、結核性眼疾患、真菌性眼疾患及び急性化膿性眼疾患の患者に対する眼科的投与
- ・急性心筋梗塞を起こした患者
- ・緑内障の患者
- ・高血圧症の患者
- ・電解質異常のある患者
- ・血栓症の患者
- ・消化性潰瘍の患者

## 【休薬・中止規定】

- ・重度の出血が現れた場合、投与を中止し、再投与は行わない
- ・タンパク尿を観察し、タンパク尿+2以上は原則休薬を考慮する
- ・Grade3以上の末梢神経障害が出た場合は中止する
- ・Grade3以上のアレルギー症状が出た場合は中止する
- ・クレアチニンクリアランス45mL/min以下で中止
- ・大きな手術の術創が治癒していない場合は治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合を除き本剤を投与しないこと

## 【減量基準】

< 次回コース開始、ペメトレキセドによる血液毒性時 >

	ペメトレキセドの用量(mg/m <sup>2</sup> )
最低好中球数 < 500/mm <sup>3</sup> 及び最低血小板数 ≥ 50,000/mm <sup>3</sup>	前回の用量の75%
最低好中球数に関わらず最低血小板数 < 50,000/mm <sup>3</sup>	前回の用量の75%
最低好中球数に関わらず出血を伴う最低血小板数 < 50,000/mm <sup>3</sup>	前回の用量の50%

< 次回コース開始、ペメトレキセドによる非血液毒性時 >

	ペメトレキセドの用量(mg/m <sup>2</sup> )
粘膜炎を除くグレード3又は4の毒性	前回の用量の75%
入院を要する下痢(グレードは問わない) 又はグレード3若しくは4の下痢	前回の用量の75%
グレード3又は4の粘膜炎	前回の用量の50%

## 【注意事項】

- ・ベバシズマブとブドウ糖溶液を混合した場合、ベバシズマブの力価の減弱が生じるおそれがあるためブドウ糖溶液との混合を避け本剤とブドウ糖溶液の同じ点滴ラインを用いた同時投与は行わないこと
- ・葉酸: 本剤初回投与の7日以上前から葉酸として1日1回0.5mg(フォリアミン錠あるいはパンビタン末など)を連日経口投与する  
なお、本剤の投与を中止又は終了する場合には、本剤最終投与日から22日目まで可能な限り葉酸を投与する。
- ・ビタミンB12: 本剤初回投与の少なくとも7日前に、ビタミンB12(メチコパール注)として1回1mgを筋肉内投与する
- ・カルボプラチンの投与回数を重ねると、ショック、アナフィラキシーの発現頻度が高くなる傾向もみられる(特に8回以上)

## 【患者の緊急受診(連絡)事項】

- ・38℃以上の発熱
- ・食欲不振が長く続くとき
- ・1日3～4回の下痢
- ・長く続く空咳とひどい息切れ

2019年6月1日 作成

・身の回りのことができない程の倦怠感

・急な嘔気・嘔吐

【緊急時連絡先】イムス三芳総合病院(夜間:緊急連絡先、日中:外科外来)

GradeはCTCAE v 4.0に準ずる

プロトコール開始年月日

2019年06月01日

プロトコール責任者

呼吸器外科 池田 豊秀